

2023 年度 東アジア政治Ⅰ 学期末試験 7 月 31 日（月） 第 3 限（13：10～14：40）

担当：磯崎典世

<注意事項>

- ・学期末試験の成績評価は 70% というに基準で作成しています。
- ・配点に相応する解答分量が求められます。授業で示した解答方法に留意した答案にして下さい。
- ・解答の順序は問いませんが、大問の解答はまとめ、問題番号を明記して記載して下さい。

問 1：下記の事項について、それぞれ解答用紙 3 行程度で説明しなさい<配点：各 3 点>。

- (1) 「一つの中国原則」と米国の「一つの中国政策」（相違点を明確にすること）
- (2) 「万年国会」
- (3) キッシンジャー外交
- (4) サンフランシスコ体制
- (5) 韓国条項
- (6) 韓国のベトナム戦争派兵（経済的意図と結果的に生じた日米韓の経済関係を整理）

問 2：戦後東アジアにおいていかなる国際関係が構築され、いかに変化・変容し、その環境下で各国がいかに国内体制を整備して対外的な対応をしたのか。授業で扱った時期の「冷戦構造の構築と変化」を時期区分（50 年代，60 年代，70 年代が目安）して整理し、そのもとで各国はなぜどのように政策を選択したのかを論じなさい。下記ポイントを踏まえ、指定された語句を使用（下線を引いて使用を明示）して論述すること。<配点：各時期 15 点で 45 点>

<論述のポイント> 各時期 15～20 行を目安に論述

- ・超大国（特にアメリカ）の政策による東アジアの冷戦構造の変化
各時期で、なぜどのように冷戦構造が変化したのかをまとめる
- ・日本を含む東アジア各国の対応
各国が環境の変化に対応して、どんな政策を選択し、なぜその選択をしたのかを説明する
- ・東アジアの国際関係を国内政治との関連を明確にして論じる
同じ環境でも方向性の違う政策が選択された場合は、その理由が明らかにする

<語句> 万年国会，「一つの中国」原則，韓国条項，ニクソン・ドクトリン，サンフランシスコ体制，開発，外省人，日中国交正常化，朝鮮戦争，台湾海峡

問 3：本授業で扱った政治学の理論やモデルのなかから任意のものを取り上げ、適切な具体的事例に適用して、理論やモデルの内容を説明しなさい（10～15 行）（授業で言及した事例ではなく、自ら適切な事例を選択し応用することが望ましい）。<配点：7 点>

ボーナス問題：

問 1～3 で 70 点満点です。下記は、小テストの内容を再度出題したボーナス問題（5 点）です。授業中に解説した内容を反映して解答して下さい。

日本の国際社会復帰とともに日韓両国の国交正常化にむけた交渉が開始されたものの、その実現には時間を要した。なぜ国交正常化が難航し（対立の争点は何だったのか）、なぜ 1960 年代半ばに決着が図られ、どのような妥結に至ったのか。50 年代から行われた東南アジア諸国への賠償方式にも言及しながら、これらの点を整理しなさい。その上で、この条約で「残された問題」とそれが両国関係に与えた影響についても論じなさい。